



TITLE:

宇佐美齊教授略歴・著作目録

AUTHOR(S):

CITATION:

宇佐美齊教授略歴・著作目録. 人文學報 2013, 103: 155-168

ISSUE DATE:

2013-03-25

URL:

<https://doi.org/10.14989/189479>

RIGHT:

宇佐美齊教授 略歴・著作目録

I 略 歴

年 月 日

- 1942・9・15 愛知県名古屋市に生まれる
1958・3 名古屋市立昭和橋中学校卒業
1961・3 愛知県立旭丘高等学校卒業
1965・3 京都大学文学部（フランス語学フランス文学専攻）卒業
1967・3 京都大学大学院文学研究科修士課程（同上）修了
1967・4 関西学院大学文学部専任助手
1969・10 フランス政府給費留学生としてパリ第10大学大学院博士課程（フランス文学専攻）
在学（―1971・6）
1972・4 関西学院大学文学部専任講師
1976・4 同助教授
1980・4 京都大学人文科学研究所助教授
1984・4 京都大学文学部および同大学院文学研究科授業担当（―2006・3）
1986・3 パリ第7大学「テキストと資料の科学科」および「東アジア言語文化研究科」
客員教授（―1986・6）
1990・3 著書『落日論』で第2回和辻哲郎文化賞を受ける
1990・7 国際日本文化研究センター客員助教授（―1992・3）
1992・4 大阪大学文学部および同大学院文学研究科授業担当（―1993・3）
1993・4 京都大学人文科学研究所教授
1999・8 フランス政府よりパルムアカデミック勲章（シュヴァリエ級）を授与される
2001・3 トゥールーズ・ルミライユ大学日本学科客員教授（―2001・5）
2003・11 日本フランス語フランス文学会関西支部長（―2005・10）
2005・5 日本フランス語フランス文学会副会長（―2007・4）
2006・3 京都大学人文科学研究所を停年退職
2006・4 京都大学名誉教授

Ⅱ 著 作 目 録

A 著 書（単著）

書名	発行所	発行年月
1 詩と時空	深夜叢書社	1975・3
2 ランボー私註	国文社	1979・2
3 立原道造（近代日本詩人選・17）	筑摩書房	1982・9
4 落日論	筑摩書房	1989・6
5 詩人の変奏	小沢書店	1992・9
6 フランス詩 道しるべ	臨川書店	1997・12
7 作家の恋文	筑摩書房	2004・1
8 中原中也とランボー	筑摩書房	2011・9

B 著 書（共著）

1 太陽の記憶	淡交社（写真・佐藤旭）	1994・6
---------	-------------	--------

C 編著書

1 フランス・ロマン主義と現代	筑摩書房	1991・3
2 象徴主義の光と影	ミネルヴァ書房	1997・10
3 アヴァンギャルドの世紀	京都大学学術出版会	2001・11
4 Arthur Rimbaud à l'aube d'un nouveau siècle (Actes du colloque de Kyoto)	Klincksieck	2006・4
5 日仏交感の近代 文学・美術・音楽	京都大学学術出版会	2006・6
6 清岡卓行論集成（2巻・岩阪恵子と共編）	勉誠出版	2008・6

D 訳 書

1 鰐の埋葬・バビロンの邪神 （フェルナンド・アラバル著 新しい世界の文学 67）	白水社	1974・7
2 坐る女（アポリネール全集第3巻）	青土社	1979・11
3 素顔のランボー （ドラエー，イザンバール，マチルド，イザベル著） [改訂新版，筑摩書房 1991・11]	白水社	1978・10
4 アルチュール・ランボー詩集 （アルバール・メッサン版〈巨匠たちの自筆原稿叢書〉訳詩篇・解題付）	臨川書店	1992・11
5 エリュアール詩集	小沢書店	1994・3
6 ランボー全詩集 （増補改訂版 2012・9）	筑摩書房（ちくま文庫）	1996・3

E 全 集（共同編集・解題執筆）

1 新編中原中也全集（5巻および別巻1）	角川書店	2000・3～ 2004・11
----------------------	------	--------------------

- | | | | |
|---|------------|------|--------------------|
| 2 | 立原道造全集（5巻） | 筑摩書房 | 2006・11～
2010・9 |
|---|------------|------|--------------------|

F 論文（邦文）

タイトル		掲載書	発行年月
1	『イリュミナシオン』の空間	年報・フランス研究 3	1967・3
2	『イリュミナシオン』と印象主義の絵画	人文論究	1967・3
3	「酔いどれ船」の自我	人文論究	1969・3
4	『虐殺された詩人』における事実と創作	人文論究	1972・3
5	ヴァレリーのふたつのナルシス	人文論究	1973・3
6	『ボヴァリー夫人』の象徴主義	人文論究	1974・3
7	ことばと生のあいだ （現代詩文庫『石川啄木詩集』研究）	思潮社	1975・6
8	ランボーにおけるイロニーと諧謔について	論攷 39	1978・3
9	アポリネールの〈夢みられた自伝〉	ユリイカ	1979・1
10	フランス散文詩の成立について	研究論文集、関西学院大学フランス文学研究室編	1980・3
11	未刊詩篇について	國文學（中原中也特集号）	1983・4
12	ボードレール——近代詩の結節点	フランスの文学 （饗庭孝男他編、有斐閣）	1984・4
13	ヴェルレーヌ、ランボー ——韻文改革と散文詩の冒険	同上	1984・4
14	落日抄——夕日と文学（連載）	言語生活（筑摩書房）	1984・4～ 1986・3
15	『悪の花』の構成	シャルル・ボードレール 『悪の花』註釈（多田道太郎編、人文科学研究所刊）	1986・3
16	落日——あるいはデカダンスの詩学	ボードレール 詩の冥府 （多田道太郎編、筑摩書房）	1988・3
17	フランス近代詩と落日	仏文研究 20	1989・9
18	「私」語りの変容 ——モーリス・ド・ゲランと新しい言語の探求	フランス・ロマン主義と現代	1991・1
19	私語りと変奏 ——「ことばの錬金術」をめぐる——	文学（岩波書店）	1992・12
20	韻文詩翻訳の二つの可能性——上田敏と柳澤健による LE BATEAU IVRE 翻訳の試み——	人文学報 72	1993・3
21	「私」の肥大と解体 ——啄木詩の変貌をめぐる——	日本文学における「私」 （中西進編・河出書房新社）	1993・12
22	詩歌の起源と転変 ——人文学における詩学の位置とその課題——	人文学のアナトミー （山田慶児・阪上孝編、岩波書店）	1995・4
23	「よみ」の理論と読者論	文学をいかに語るか （大浦康介編、新曜社）	1996・7
24	曖昧と意味の揺らぎ	同上	1996・7
25	象徴詩の難解さと解釈をめぐる	象徴主義の光と影	1997・10
26	詩における曖昧と想像力	日本の想像力 （中西進編・JDC）	1998・1

27 唄が流れる —— 中原中也と小林秀雄の「幸福」訳をめぐって	中原中也研究 3	1998・3
28 翻訳家としての中原中也	中原中也研究 5	2000・8
29 中原中也とフランス近代詩	文学における近代 —— 転換期の諸相 —— (井波律子・井上章一編, 国際日本文化研究センター)	2001・3
30 アヴァンギャルドの時間意識	アヴァンギャルドの世紀	2001・11
31 フランス詩の磁場	新編中原中也全集 別巻 「研究篇」	2004・11
32 偽作のはなし	表現における越境と混沌 (日文研叢書, 井波・井 上編)	2005・9
33 白熱の現在を生き続ける詩人	季刊 iichiko, ランボー 特集	2005・10
34 近代詩の移入から創造へ	日仏交感の近代	2006・5
35 中原中也と立原道造 —— 相照らすふたつの詩精神	中原中也研究 11	2006・8
36 中原中也訳ランボーの諸問題	リュテス (大阪市立大学 フランス文学会紀要, 小 西嘉幸先生退任記念号)	2006・10
37 詩人の手稿をめぐって —— ランボー, 中也, 道造 ——	仏文研究 38	2007・10

G 論文 (仏文)

タイトル	掲載書	発行年月
1 Les <i>Illuminations</i> et la peinture	<i>Zinbun</i> No. 19	1983・3
2 Le Problème de l'Ego chez Rimbaud	<i>Zinbun</i> No. 20	1986・3
3 Le Rôle de l'écriture dans la poésie japonaise moderne	<i>Zinbun</i> No. 22	1988・3
4 Introduction aux Soleils Couchants	<i>Zinbun</i> No. 24	1991・3
5 La Conscience du temps chez Rimbaud	<i>Arthur Rimbaud, un siècle d'errances</i> (Presses Universitaires de Lille)	1993・1
6 Les Métamorphoses du diseur du moi—Maurice de Guérin et la recherche d'une nouvelle langue—	<i>Equinoxe</i> No. 10 (numéro spécial consacré au Romantisme français)	1993・4
reproduit dans l' <i>Amitié Guérinienne</i> , bulletin périodique des Amis des Guérin No. 171		1997・5
7 Baudelaire—Foyer de la poésie symboliste—	<i>Equinoxe</i> No. 15, numéro spécial consacré au Symbolisme, Rinsen Books	1998・5
8 L'Étude de la littérature française, de Rousseau à Baudelaire, à l'Institut de Recherches en Sciences Humaines de l'Université de Kyoto	<i>Zinbun</i> No. 34(1)	2000・3
9 Deux traductions japonaises de «Bonheur» d'Arthur Rimbaud	<i>Equinoxe</i> No. 17/18	2000・5

10	Traduire Rimbaud en japonais	<i>Arthur Rimbaud à l'aube d'un nouveau siècle (Actes du colloque de Kyoto)</i>	2006・4
H 注 釈			
1	清岡卓行詩集（鑑賞執筆）	現代の詩人 6, 中央公論社	1983・12
2	Yves-Marie Allieux, <i>Un Spectacle amusant</i> （編注・後記執筆）	白水社	1985・3
3	シャルル・ボードレール『悪の花』註釈 執筆分担 LXV Tristesse de la lune（月の悲しみ）訳・注釈 LXVI Les Chats（猫）訳・注釈 LXXXVIII A une mendiante rousse （赤毛の女乞食に）訳・注釈 XCIV Le Squelette laboureur （地を耕す骸骨）訳・注釈 C <i>La servante au grand cœur dont vous étiez jalouse...</i> （あなたがねたましく思っていた あのまごころのふかい女中……）訳・注釈 CV Le Vin des chiffonniers（屑拾いの酒）訳・注釈 CXII Les Deux Bonnes Sœurs （優しいふたりの姉妹）訳・注釈 CXIX Abel et Caïn（アベルとカイン）訳・注釈 CXX Les Litanies de Satan （サタンへの連禱）訳・注釈 CXXV Le Rêve d'un curieux （好奇心の強い男の夢）訳・注釈 II L'Albatros（あほう鳥）補注 III Elévation（高翔）補注 XVI Châtiment de l'orgueil（慢心の罰）補注 XXXVI Le Balcon（露台）補注 XLV Confession（告白）補注	上下2巻, 多田道太郎編, 人文科学研究所刊, 上中下3巻, 平凡社刊	1986・3 1988・3
4	Guillaume Apollinaire, <i>L'Otmika</i> （編注・後記執筆）	白水社	1990・3
I 評 論（解説・エッセイを含む）			
1	無の世界の奢り	状況 1	1961・12
2	美・現実・歴史——ランボー試論	状況 2	1962・9
3	マルクス主義とサルトル	状況 2	1962・9
4	故郷喪失の時代とぼくら	京都大学新聞	1962・10
5	ランボー試論	京都大学新聞	1963・1
6	錯乱の季節	状況 3	1963・6
7	ロマンティックの変貌——自我論の試み	状況 4	1963・10
8	ロマンティックと自我の解離	京都大学新聞	1963・11
9	ボーデンローズ 基盤喪失の演劇	協同	1963・11
10	純粹人間の物理学——中井正一の美学（上下）	京都大学新聞	1964・6
11	中井正一についての諸注	現代史研究 38, 39	1964・11～ 1965・1
12	清岡卓行論（上下）	九州大学新聞	1965・10～11

13	詩と時空	詩と批評	1966・8
14	成熟について	詩と批評	1966・11
15	語り終ったあと	首 11	1967・8
16	旅の空間	詩と批評	1968・2
17	恋愛の空間	詩と批評	1968・10
18	清岡卓行論（全詩集版『清岡卓行詩集』解説）	思潮社	1969・11
19	パリの図書館の思い出	時計台 （関西学院大学図書館報）	1972・6
20	清岡卓行と批評	ユリイカ	1972・12
21	何処へ？ ―立原道造私論	樹海 1	1973・11
22	如是我聞（丙）	樹海 1	1973・11
23	向日葵断想	樹海 2	1974・9
24	如是我聞（甲）	樹海 2	1974・9
25	アポリネール『ルーへの詩』より	ふらんす	1974・12
26	啄木のロマンチズム	現代詩手帖	1975・6
27	『地獄の季節』小論	樹海 3	1975・9
28	如是我聞（丙）	樹海 3	1975・9
29	孤独と共生への夢	磁場、臨時増刊、 宮沢賢治特集号	1975・11
30	ランボーあるいは夢の破碎	磁場 8	1976・4
31	郷愁の方向	群像	1976・4
32	読みの名手 ―安藤元雄の詩書をめぐって	ユリイカ	1976・6
33	ランボーに関するノート	樹海 4	1976・10
34	においガラス	樹海 4	1976・10
35	ランボーと幻想の都市	ユリイカ （ランボー特集号）	1976・11
36	『記憶と現在』をめぐって	ユリイカ （大岡信特集号）	1976・12
37	篋底詩篇	樹海 5	1977・9
38	ある休暇	樹海 5	1977・9
39	悲しみの楽園	磁場 12	1977・7
40	あやめ香水と望郷の歌	ポエム （萩原朔太郎特集号）	1977・7
41	歴史的な夕暮	磁場 13	1977・12
42	生きて書く喜び	ユリイカ （吉田健一特集号）	1977・12
43	ランボー、ことばと生をつらぬく「私」	現代詩手帖	1978・2
44	愛の砂漠	磁場 14	1978・4
45	季節と城と	磁場 15	1978・7
46	地獄めぐりと語り	カイエ （ランボー特集号）	1978・9
47	見えない海	樹海 6	1978・10
48	川と自転車	樹海 6	1978・10
49	生身の詩人を実感する ――私の訳した本『素顔のランボー』	翻訳の世界	1978・12

宇佐美齊教授 略歴・著作目録

50	ランボーの生地シャルルヴィルを訪ねて	関西学院広報	1979・3
51	『夢日記』について	カイエ (島尾敏雄特集号)	1978・12
52	アポリネール略年譜	ユリイカ (アポリネール特集号)	1979・1
53	西を向く追想	而シテ	1979・9
54	地名の誘惑	樹海 7	1979・10
55	ギヨーム・アポリネール詳細年譜	アポリネール全集 4, 青土社	1979・10
56	清水昶の三つの空間	現代詩文庫 『新選清水昶詩集』解説	1980・2
57	詩人の変奏	堀辰雄全集 7, 月報, 筑摩書房	1980・6
58	十三年ののち	所報 人文	1980・7
59	書簡集の魅力	新修宮沢賢治全集 16, 月報, 筑摩書房	1980・8
60	立原道造の出発	樹海 8	1980・10
61	啄木の『ローマ字日記』について	図書新聞	1981・1
62	アポリネールと現代(講演要旨)	所報 人文	1981・3
63	解説・アラバール, ユルスナール	フランスを創った人々 (ラジオスコピー), 日仏技術	1981・4~10
64	生き方と書き方	吉田健一著作集, 補巻 1, 月報, 集英社	1981・6
65	連載・詩圏	毎日新聞	1982・1~4
66	「ニシ」ということばについて	海浪 5	1983・7
67	洋画時評・F・トリュフォー 「日曜日が待ち遠しい!」	映画新聞	1985・5
68	洋画時評・M・デュラス「インディア・ソング」	映画新聞	1985・8
69	ある日の詩人	清岡卓行全詩集, 折込, 思潮社	1985・10
70	黄憲展のために	黄憲展図録 (大阪フォルム画廊)	1985・10
71	洋画時評・I・ベルイマン 「ファニーとアレクサンデル」	映画新聞	1986・1
72	洋画時評・A・ヴァルダ「宿なし女」	映画新聞	1986・5
73	洋画時評・E・ロメール「O 侯爵夫人」	映画新聞	1986・9
74	プレヴェールの「朝の食事」	大阪日仏センター案内	1987・1
75	洋画時評・「オーソン・ウェルズのフォルスタッフ」	映画新聞	1987・1
76	洋画時評・大島渚「マックス, モン・アムール」	映画新聞	1987・5
77	洋画時評・E・ロメール「緑の光線」	映画新聞	1987・11
78	清岡卓行の空間 (講談社文芸文庫版『アカシヤの大連』解説)	講談社	1988・2
79	「夕日」と文学——フランス近代詩を中心に—— (講演要旨)	所報 人文 34	1988・3
80	桑原武夫先生の思い出	アサヒグラフ	1988・12
81	サルダナーナとの出会い	所報 人文 35	1989・3

人 文 学 報

82	柱時計のふたつの顔	すばる	1989・10
83	世紀末という「落日」	産経新聞	1989・12
84	落日に憑かれて	東京・中日新聞	1990・3
85	放浪のにしひがし —— 山頭火とランボー	鳩よ！	1990・3
86	作家の恋文	京都新聞	1990・4
87	愛と死と狂気物語（マルグリット・デュラス作・ 清岡卓行訳『ヒロシマ私の恋人』解説）	ちくま文庫	1990・5
88	夏を送る	三田文学（秋季号）	1990・9
89	ボードレールの日本上陸	鳩よ！	1991・1
90	連載・作家の恋文	夕刊フジ	1991・1
91	アルチュール・ランボー百年忌に寄せて	産経新聞	1991・7
92	詩と批評の連携 —— 平出隆論	現代文学	1991・8
93	ランボー百年忌	大阪日仏センター講座案内	1991・9
94	永世と孤立	現代詩手帖特集版・ ランボー 101 年	1992・1
95	演戯と変身 —— 恋愛書簡の磁場 ——	新潮	1992・2
96	ロマン主義の余白に	ドイツ・ロマン派全集別 巻Ⅱ「ドイツ・ロマン派 詩集」月報 22, 国書刊 行会	1992・4
97	瞬間の輝きと生の充溢	小川国夫全集, 第一巻月 報, 小沢書店	1992・4
98	詩人建築家の夢	新生, 第 15 巻冬号	1993・1
99	内なる古都	海鳴り 8	1993・8
100	詩のことは —— リュートからイメージへ（講演要旨）	所報「人文」40	1994・3
101	語源探索の楽しみ	週刊読書人	1994・3
102	「秋」の表象と風土 —— フランス近代詩から	is 65, ポーラ文化研究所	1994・9
103	一房の髪	ジュール・ルナール全集・ 月報 2, 臨川書店	1995・1
104	詩と思想における才能の発現と年齢	発達 61, ミネルヴァ書房	1995・1
105	私は他者 —— ランボーの警句をめぐって	発達 65, ミネルヴァ書房	1996・1
106	マルグリット・デュラスさんを悼む	産経新聞	1996・3
107	大洪水のあと	所報 人文 42	1996・3
108	詩篇解説・清岡卓行 5 篇	日本名詩集成, 学燈社	1996・11
109	連載・フランス詩こぼれ話	ふらんす	1997・1~3
110	中原中也の「幸福」訳をめぐって	特別企画展「中原中也と ランボー」パンフレット, 中原中也記念館	1997・10
111	黄憲の絵	繪 406, 日動画廊	1997・12
112	唄が流れる —— 中原中也と小林秀雄の「幸福」 訳をめぐって ——	中原中也研究 3	1998・3
113	文学と悪戯	読売新聞	1999・3
114	特別な一篇 —— 清岡卓行「ある名前に」	現代詩手帖	1999・4
115	近代詩の中の恋愛 —— 立原道造に照し合わせて	中原中也の会会報 6	1999・7
116	夕陽と近代日本の抒情	別冊太陽「日本の郷愁 夕焼けこやけ」	1999・7

宇佐美齊教授 略歴・著作目録

117	ルナールと中原中也	中原中也研究 4 (中原中也記念館)	1999・8
118	ランボー・流星の輝き	週刊朝日百科 『世界の文学』17	1999・11
119	アポリネール・心の操縦士	週刊朝日百科 『世界の文学』17	1999・11
120	六〇号の驚異	現代文学	1999・12
121	白沙村荘について	中原中也の会 会報 7	2000・1
122	新編中原中也全集について	週刊読書人	2000・3
123	翻訳家中也の全貌	季刊 iichiko. 67	2000・7
124	京都の詩人建築家	立原道造記念館館報 12	1999・12
125	バルザックの恋文	機, 藤原書店	2000・12
126	連載・ランボーの花園	小原流 挿花	2001・1~12
127	若き日の佐々木康之さん	佐々木康之教授退職記念 論集, 立命館大学人文学会	2001・2
128	北辻良央の世界——「客人の庭」展に寄せて	小原流 挿花	2001・2
129	物語を織る喜びと哀しみと	国文学解釈と鑑賞・別冊 立原道造	2001・5
130	手紙という小道具	イリプス 5	2001・10
131	フランス近代詩への情熱 —— 富永太郎と中原中也をむすぶもの	中原中也記念館 秋の企画展リーフレット	2001・10
132	連載・作家の恋文	小原流 挿花	2002・1~12
133	「アヴァンギャルドの世紀」を問う	読売新聞	2002・3
134	立原道造の往復書簡を読む	企画展図録 『立原道造と杉浦明平』 (立原道造記念館)	2002・3
135	「音のかげら」によせて	企画展図録『はがねの変 相—— 金沢健一の仕事』 (川崎市岡本太郎美術館)	2002・3
136	新資料「蛙ノート」雑感	立原道造記念館館報 24	2002・12
137	中原中也とランボー (講演要旨)	所報 人文 50	2003・3
138	中原中也とネルヴァル	ネルヴァル全集, 第 6 巻 月報, 筑摩書房	2003・3
139	伊東静雄の京都	現代詩手帖	2003・6
140	フランス詩の磁場	國文学, 学燈社	2003・11
141	作家の恋文を読む	ちくま 395	2004・2
142	作家の恋文を読む楽しみ	読売新聞	2004・2
143	連載・作家の恋文を読む	NHK ラジオ・フランス 語講座テキスト	2004・4~ 2006・3
144	白熱の現在を生きる詩人ランボー	京都新聞	2004・8
145	紫陽花の消長—— 春日井建の死を悼む	現代詩手帖特集版 「春日井建の世界」	2004・8
146	立原道造生誕九十年に寄せて	立原道造記念館館報	2004・9
147	大岡昇平と中原中也	中原中也の会会報	2005・8
148	日仏文化交渉の研究	日本歴史	2006・1
149	詩を読む・語る・訳す (退職記念講演要旨)	所報 人文 53	2006・3

150	京大生協の思い出	らいふすてーじ、 教職員特集号	2006・3
151	渋谷孝輔という存在（アンケート回答）	現代詩手帖	2006・5
152	中原中也の使った仏和辞典	日仏交感の近代	2006・5
153	吉田城さんの思い出	『仏文研究』吉田城先生 追悼特別号	2006・6
154	四十年の歳月——清岡卓行さんを悼む	現代詩手帖	2006・7
155	中原中也とランボー	中原中也を読む (佐藤泰正編, 笠間書院)	2006・7
156	連載・中也の軌跡	時事通信社配信各紙	2007・3～6
157	この世とあの世の往還	現代詩手帖 特集「中原中也生誕百年」	2007・4
158	フランス詩との交感	別冊太陽 中原中也 魂 の詩人	2007・5
159	フランス詩の絆——太郎と中也	神奈川近代文学館「中原 中也と富永太郎展」図録	2007・6
160	浅間の噴火と蛾の残した歌	軽井沢高原文庫通信 68	2007・10
161	肘枕して空を仰ぐひと	佐藤巧作品集, 六曜社	2007・10
162	解説	日本詩仏訳のころみ (イヴ=マリ・アリユー著, 白水社)	2007・12
163	隆雄さんの酒罎器	ガリア (大阪大学文学部 フランス文学研究室紀要, 柏木隆雄教授退職記念号)	2008・3
164	1930年代の日本におけるフランス詩の受容 (前年12 月にシャルルヴィル=メジエール市メディアセン ターで行った仏語講演の邦訳)	月光1, 勉誠出版	2009・8
165	受賞のことば	和辻哲郎文化賞 20年記 念誌「人間としてあるこ と」	2009・9
166	自筆原稿の恵み	日本近代文学館年誌	2009・10
167	中原中也とデボルド=ヴァルモール	雑誌『四季』と中原中也, 中原中也記念館	2011・9
168	失われた眼鏡	ヴァレリー集成V, 月報 5, 筑摩書房	2012・2
169	若い芸術家たちの戦い	Les Phénomènes s'émur- ent (エコール・デ・ボ ザール留学生展カタログ)	2012・4
170	連載・フランス名詩散策	NHK テレビ・フランス 語講座テキスト	2012・4～
171	水準器と羅針盤	現代詩手帖, 吉本隆明追 悼特集号	2012・5
J シンポジウム・座談会・対談			
1	中原中也生誕90年記念シンポジウム・中原中也とフ ランス文学をめぐって(新井豊美, 飯島耕一と共に)	中原中也研究3	1998・3
2	座談会・近代文学における「私」の系譜(高野公彦, 坪内稔典と共に)	短歌の私, 日本の私 (短歌と日本人V, 岩波 書店)	1999・5

宇佐美齊教授 略歴・著作目録

3	座談会・中也の脳を探索する (加藤典洋, 佐々木幹郎と共に)	ユリイカ 中原中也特集号	2000・6
4	シンポジウム・中原中也, 近代詩の中の恋愛 (中村稔, 國生雅子, 北川透と共に)	中原中也研究 5	2000・8
5	シンポジウム・中原中也とランボー, ヴェルレーヌ (鈴村和成, 山田兼士, 佐々木幹郎と共に)	中原中也研究 7	2002・8
6	シンポジウム・大岡昇平と中原中也全集 (佐々木幹郎, 樋口寛と共に)	中原中也研究 11	2006・8
7	国際シンポジウム・季節が流れる, 城塞が見える (ジャン=リュック・ステンメッツ, イヴ=マリ・アリュー, 鈴村和成, 佐々木幹郎と共に)	中原中也研究 13	2008・8
8	シンポジウムを振り返って	中原中也研究 13	2008・8
9	座談会・虚点を貫く——詩人清岡卓行の全体像 (新井豊美・高橋英夫と共に)	現代詩手帖	2008・11
10	対談・翻訳者にして翻訳された詩人 中原中也 (イヴ=マリ・アリューとパリ日本文化会館で前年末 にフランス語で行ったものの邦訳)	中原中也研究 14	2009・8

K 翻 訳 (単行本を除く)

1	秋 (ジャン=クロード・ルモー著)	状況 3	1963・6
2	ジャン・ジュネ詩抄 愛のうた	現代詩手帖 (思潮社)	1964・2
3	引っ掛かった夢 (ギイ・レヴィ=マノ)	夢の軌跡, アンドレ・ブルトン編, 国文社	1970・3
4	思い出抄——ランボーとヴェルレーヌ (マチルド・モーテ著)	ユリイカ (ランボー特集号)	1976・11
5	詐欺師 (ジュール・ヴェルヌ著)	ユリイカ (ヴェルヌ特集号)	1977・5
6	ネルヴァル奇聞 (ギヨーム・アポリネール著)	カイエ (アポリネール特集号)	1979・2
7	訳詩三篇 (マラルメ, ヴァレリー, アポリネール)	樹海 7	1979・10
8	竹ものがたり (イヴ=マリ・アリュー著)	ユリイカ	1980・7
9	連載・戦後詩を読む (イヴ=マリ・アリュー著)	ふらんす	1981・4～ 1982・3
10	連載・続日本点描 (イヴ=マリ・アリュー著)	ふらんす	1983・4～ 1984・3
11	真の国際化とは何か (イヴ=マリ・アリュー著)	福岡ユネスコ通信	1984・5
12	訳詩 29 篇 (ミュッセ, ラディゲ, ジャコブほか)	阿部富美子ソプラノ・リ サイタル (イイノホール) 「プログラム」	1985・6
13	訳詩 22 篇 (ボードレール, マラルメ, ヴェルレーヌほか)	阿部富美子ソプラノ・リ サイタル (イイノホール) 「プログラム」	1987・6
14	サイラ, 最高存在の讃歌	資料フランス革命 (河野健二編, 岩波書店)	1989・6
15	「鳥羽 3」について (イヴ=マリ・アリュー著)	谷川俊太郎『旅』別冊, 思潮社	1995・2
16	中原中也とフランス文学 (イヴ=マリ・アリュー著)	中原中也研究 1	1996・3
17	訳注・悪い血——ランボー『地獄の季節』より	P&T 3	1995・11

人 文 学 報

18	フランスにおける宮沢賢治（イヴ=マリ・アリュー著）	世界に広がる宮沢賢治 —— 宮沢賢治国際研究 大会記録集	1997・9
19	中原中也は山羊か羊か ——『山羊の歌』という詩集名 について（イヴ=マリ・アリュー著）	中原中也研究 7	2002・8
20	中原中也、あるいはその「無垢の歌」をめぐって （イヴ=マリ・アリュー著）	中原中也研究 11	2006・8
21	連載・フランス現代詩をよむ （イヴ=マリ・アリュー著）	ふらんす	2007・4～ 2008・3
22	二人の太陽の子 —— 宮沢賢治とアルチュール・ランボー （イヴ=マリ・アリュー著）	宮沢賢治 —— 驚異の想 像力、その源泉と多様性 （宮沢賢治学会編）	2008・1
23	到達不能のもの（イヴ=マリ・アリュー著）	現代詩手帖	2008・10

L 書 評

1	マタラッソー、プティフィス著『ランボーの生涯』	日本読書新聞	1972・6
2	ド・シュガール著『ボードレールとリルケ』	日本読書新聞	1973・2
3	H・ミショー著『夢の見方 目覚め方』	日本読書新聞	1975・3
4	清岡卓行著『詩禮傳家』	週刊読書人	1975・12
5	清水昶著『抒情の遠景』	週刊読書人	1976・4
6	中村稔著『羽虫の飛ぶ風景』	ユリイカ	1977・2
7	外岡秀俊著『北帰行』	週刊読書人	1977・2
8	清水哲男著『唄が火につつまれる』	図書新聞	1977・5
9	飯島耕一著『塔と蒼空』	週刊読書人	1977・5
10	北川透著『中原中也 わが展開』	日本読書新聞	1977・7
11	ロブ=グリエ著『快楽の漸進的横滑り』	週刊読書人	1978・1
12	栗津則雄著『少年ランボオ』	週刊読書人	1978・2
13	人文書院版『ランボー全集』全三巻を通読して	週刊読書人	1978・8
14	イヴ=マリ・アリュー著『日本詩を読む』	週刊読書人	1979・5
15	清水昶著『太宰治論』	日本読書新聞	1979・10
16	北川透著『同時代覚書』（上下）	図書新聞	1979・12
17	栗津則雄著『ランボオの生成』	現代詩手帖	1979・3
18	天沢退二郎著『フランス詩への招待』	週刊読書人	1980・7
19	清岡卓行著『駱駝のうへの音楽』	週刊読書人	1980・12
20	柳田聖山著『一休「狂雲集」の世界』	所報 人文	1981・3
21	小田切秀雄編『啄木日記』	週刊読書人	1981・7
22	竹内実著『魯迅周辺』	所報 人文	1982・3
23	平出隆著『破船のゆくえ』	週刊読書人	1982・6
24	荒井健著『秋風鬼雨』	所報 人文	1984・3
25	清岡卓行著『初冬の中国で』をめぐって	詩学	1985・6
26	清水昶著 『ぼくらの出発 —— 詩的一九六〇年代記 ——』	週刊読書人	1987・3
27	開かれた評伝 —— 蓮實重彦著『凡庸な芸術家の肖像』をめぐって	シコウシテ 21	1989・9
28	上村くにこ著『白鳥のシンボリズム』	週刊読書人	1990・6

宇佐美齊教授 略歴・著作目録

29	清岡卓行著『薔薇ぐるい』	図書新聞	1990・12
30	フローラへの供物——清岡卓行『薔薇ぐるい』	新潮	1991・2
31	中村真一郎著『暗泉閑話』	産経新聞	1991・4
32	M・トゥルニエ著『メテオール（気象）』	産経新聞	1991・8
33	D・デザンティ著『新しい女』	週刊読書人	1991・9
34	清岡卓行著『萩原朔太郎「猫町」私論』	産経新聞	1991・10
35	シャルル・ソルリエ著『わが師シャガール』	産経新聞	1992・4
36	辻征夫著『かんたんな混沌』	現代詩手帖	1992・4
37	『クワジーモ詩集』	産経新聞	1992・8
38	鎮魂の調べから嘆きぶしへ ——辻井喬著『群青、わが黙示』をめぐって	新潮	1993・2
39	『モンテーニュ旅日記』	産経新聞	1993・2
40	パヴェル著『ペルシャの鏡』	産経新聞	1993・5
41	バタイユ著『聖女たち』	産経新聞	1993・9
42	岩阪恵子著『淀川にちかい町から』	産経新聞	1993・11
43	ダン・フランク著『別れるということ』	産経新聞	1994・3
44	M・ユルスナール著『青の物語』	産経新聞	1994・10
45	テキスト研究と翻訳との統合の試み ——青土社版『ランボー全詩集』の刊行に寄せて	文学（岩波書店）	1994・10
46	河島英昭著『ウングレッティ 詩人の生涯』	産経新聞	1995・2
47	モラヴィア著『豹女』	産経新聞	1995・4
48	M・デュラス著『あつかましき人々』	産経新聞	1995・5
49	清水昶著『天皇陛下の銀時計』	図書新聞	1995・7
50	メランベルジェ著『宮沢賢治をフランス語で読む』	ふらんす、白水社	1996・1
51	杉本秀太郎文粹1『エロスの図柄』	産経新聞	1996・5
52	M・デュラス著『これで、おしまい』	産経新聞	1996・6
53	飯島耕一著『暗殺百美人』	産経新聞	1996・10
54	中地義和著『ランボー』	図書新聞	1997・1
55	ミラン・クンデラ著『ほんとうの私』	産経新聞	1997・11
56	ボードレーールの新訳に思う ——杉本秀太郎訳『悪の花』について	京都新聞	1998・11
57	黄金と遍歴——辻征夫の『ぼくたちの（組板のような）拳銃』をめぐって	新潮	1999・10
58	清岡卓行著『マロニエの花が言った』	東京・中日新聞	1999・10
59	秋風とともに訪れたヴィヨン ——天沢退二郎訳『ヴィヨン詩集成』をめぐって	新潮	2000・12
60	日常から一瞬へ——清岡卓行著『一瞬』を読む	現代詩手帖	2002・11
61	杉本秀太郎著『青い兎』	京都新聞	2004・7
62	杉下元明著『江戸漢詩』	京都新聞	2004・10
63	フランス語になった中原中也の詩	流域56	2005・9
64	仏訳中原中也詩集をめぐって	ふらんす	2006・2
65	青土社版『ランボー全集』を読む	ふらんす	2006・12
66	鈴木和成著『ランボーとアフリカの8枚の写真』	日本経済新聞	2009・1

- 67 山田慶兒著『ダンテは世界をどう描いたか
——新訳「神曲地獄篇」と、その解説』 潮 2009・10

M 辞典・事典

- | | | |
|-------------|-------------------|---------|
| 1 「清岡卓行」 | 増補改訂 新潮日本文学
辞典 | 1988・1 |
| 2 「ゾラ」ほか3項目 | 岩波哲学・思想事典 | 1998・3 |
| 3 「夕日と瀬戸内海」 | 瀬戸内海事典，南々社 | 2007・12 |

[2012年10月31日現在]

《著者名の漢字表記について》：通常の刊行物においては，原則として「齊」を用いる。ただし人文科学研究所在任中は，学内関連の刊行物に限り，戸籍記載通りに「齊」を用いた。